



年 組 名前

道新でワークシート

道産品 欧州に直接空輸

道、ヘルシンキ線で実証実験へ

道は、今冬に就航する北欧航空大手フィンランド航空の新千歳—ヘルシンキ線の旅客機に、酒などの道産品を積み込んで空輸する実証実験に乗り出す。これまで道内と欧州を結ぶ航空路線がなかったため、欧州向けの貨物を空輸する場合は東京経由が大半だった。実験でコストや技術上の課題などを洗い出し、実用化につなげて道産品の輸出拡大を図る狙いだ。

(内藤景太)

時短と費用減に期待

ヘルシンキ線は、12月中旬から来年3月まで週2往復する。ヘルシンキ空港は欧州の100以上の都市に路線がある。新千歳から直接空輸すれば、羽田空港や成田空港を経由するの比べて、輸送時間が短縮され、費用も割安になるメリットが期待される。

道は今冬、ヘルシンキ線で使われる機体の貨物スペースの一部を借り、少なくとも3回、試験的に道産品を空輸。品目や量は今後検討するが、日持ちする日本酒や加工品などが想定されており、実際に輸送にかかった費用や時間、保冷技術の課題などを調べる。

これに先立ち、今秋には道内から欧州に向けて、どんな品目がどれくらい航空機で運ばれているかを把握するため、輸出実績のある道内食品業者や物流業者などに空輸の実態について聞き取り調査を行う。

道によると、道内の空港や港湾からの道産食品輸送額はアジア圏が約9割を占める一方、欧州は数%にとどまる。道航空局は「新千歳から欧州への貨物輸送が増えれば、道産品の輸出拡大につながり、欧州線増便のきっかけにもなる」と話す。

2019年8月16日(金) 朝刊 全道選版 総合5P

- ①新千歳—ヘルシンキ線の旅客機に道産品を積み込んで空輸することでどのようなメリットがありますか。
- ②実現するためにはどのような課題を検証しなければならないか、記事から考えて書きましょう。